

千葉県環境審議会鳥獣部会の開催結果（概要）

- 1 開催日時 令和元年8月20日（火）
午前10時30分から午前11時20分まで
- 2 開催場所 千葉県森林会館 5階 第1会議室
千葉市中央区長洲1-15-7
- 3 出席者
【委員】羽山伸一委員（部会長）、木下敬二委員、桑原和之委員、勝山満委員、小茂田勝己委員、並木康雄委員
【県】生活安全・有害鳥獣担当部長、自然保護課長他
- 4 議案
議案第1号 ヤマドリの雄の狩猟（案）について
議案第2号 キツネの狩猟（案）について
- 5 審議結果
議案第1号及び第2号について、原案どおり異議なく議決された。
- 6 主な質疑・意見

《議案第1号》

問：ヤマドリの雌とキジの雌は似ているが、見分けはできるのか。ヤマドリを保護する意義や見分け方を一般の方に対しPRすべき。（並木委員）

答：尾の違い等で見分けることができるが、確かに難しいところはある。一般の方へのPRについては検討したい。（千葉県）

問：1月から2月のみ狩猟を制限する趣旨は何か。（並木委員）

答：春先が繁殖期であり、その前の繁殖行動が活発化する時期の狩猟を制限している。（千葉県）

問：狩猟者が減っているため、ヤマドリの目撃数が減っているのではないか。（小茂田委員）

答：目撃数を狩猟登録者数で割った数値の推移をみたところ、ほぼ横ばいの状態が続いていたため、狩猟者数の減少の影響は大きくないと判断している。（千葉県）

問：ヤマドリのために出猟した狩猟者数で割る必要があるので、精査が必要。（羽山委員）

問：ヤマドリの雌とキジの雌では色が違うので、訓練すれば見分けられる。野鳥の会等に見分け方の啓発を願えば、一般の方に知ってもらえるのではないか。また、千

葉県では、多くの地上営巣性の種が減少している。千葉市野鳥の会の記録では、県全体を対象にした観察記録が1万件あるが、ヤマドリは数件のみである。ウスアカヤマドリの遺伝子分析が進んでいるが、ウスアカヤマドリの分布が変わるかもしれない。千葉県のヤマドリは特殊なヤマドリになる可能性があるので、保護していく必要がある。生き物に関心のある方の目撃情報が、生物多様性センターに寄せられているが、ヤマドリはどうなっているのか。(桑原委員)

答：いのちのにぎわい調査団という取組で、一般の方に生物の目撃情報を寄せてもらっている。これまで累計で10万4千件の情報が寄せられており、鳥は見やすいため件数が多いが、うちヤマドリは6件のみ。生き物に関心のある1400名以上の目を見て、限られた件数であるので、ヤマドリが少ないことは間違いない。(千葉県)

問：年に何羽放鳥しているのか。(羽山委員)

答：雄75羽、雌75羽、計150羽を数カ所に放鳥している。(千葉県)

問：150羽放鳥して100羽以上捕獲しているのであれば増えないだろう。増えない理由を分析し、改善策を検討する必要がある。(羽山委員)

《議案第2号》

問：平成29年度のキツネの目撃数が倍増しているが、何か原因はあるのか。(小茂田委員)

答：同じ狩猟者が同一個体を繰り返し目撃している可能性等が考えられるが、詳しい原因は不明である。(千葉県)

問：レッドデータブックの評価では、キツネは県北に多いような記載がされているが、キツネの目撃場所の変遷図では、目撃情報は県南の方が多いように見える。何か理由はあるのか。(並木委員)

答：レッドデータブックでは、博物館の学芸員に寄せられたデータを基にしている。狩猟者の目撃情報は、山の中を広域にわたり歩いて目撃した結果をメッシュ化しており、その影響があるだろう。(千葉県)